

## 地盤調査



一建設では全棟の建設予定地で着工前に地盤の強さをチェック。不同沈下対策が必要かどうかを専門業者が判定します。

## 地盤改良工事



地盤の強さに応じて地盤補強が必要な場合は柱状改良工事など適切な地盤補強工事を行います。

## 配筋



基礎工事ではベース部分には太さ13mmの鉄筋を200mmピッチで基礎目状に配筋します。

## コンクリート打設



配筋後、コンクリートを流し込んで【ベタ基礎】を造ります。

## 基礎完成



【ベタ基礎】は不同沈下に対する耐久性や耐震性を高めるだけでなく床下防湿対策にもなります。

## 土台



基礎と土台の間には基礎パッキンを設置。床下と外部の換気を可能にする事で湿気の滞らない床下環境をつくり、木材の腐食を防ぎます。

## 筋交



一建設では地震力・風圧力それぞれ建築基準法の必要壁量の1.2倍以上を目安に壁量の検討を行い、筋交を設置しています。

## 集成材



木材には無垢材よりも狂いが少なく、強度が安定している集成材を多く採用しています。

## 接合金物



構造材をつなぎ止める接合部には耐震金物を採用。構造体をしっかりと緊結させ耐震性能を向上させています。

## 剛床



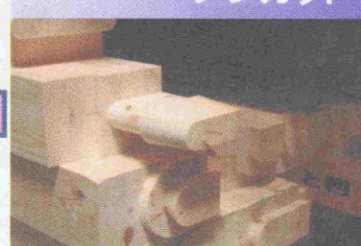
1階と2階の床面には厚さ24mmの合板を敷く剛床工法を採用。水平方向の揺れに非常に強い構造を実現しています。

## 上棟



クレーンを使って一日で骨格部分を組み上げます。

## プレカット



柱や梁は事前に工場で行うプレカットシステムを採用。精度の高い構造材になると共に現場でゴミや騒音の発生を抑制します。

## 防腐・防蟻



柱や壁面など床から1mの範囲には白蟻に対する防蟻効果の高い薬剤を塗布しています。

## ルーフィング



屋根工事では最初にアスファルトルーフィングを敷いて雨水の浸入を防ぎます。

## スレート



仕上材はスレートを採用。陶器瓦の1/2以下の重さなので住宅の負担を少なくし耐久性を向上させています。

## 検査



建築中には基礎・構造・屋根防水検査等第三者による厳格な品質検査を実施しています。

## 透湿防水シート



壁には通気性の高い透湿防水シートを使って、壁体内の湿気を効率良く外気に放出できる工法を採用しています。

## 通気工法



胴縁という厚さ15mmの木材を留めつけて通気層を確保します。この事で壁の内側に空気が流れて結露を防止し、カビや腐りの発生を抑えます。

## 完成



キッチン・トイレなど設備器具を設置し、建物は完成です。

## シックハウス対策

建築材料の区分	ホルムアルデヒドの発散	JIS等の表示記号	内装仕上げの制限
建築基準法の規制対象外	少ない	F☆☆☆☆	制限なしに使用できる
第3種ホルムアルデヒド発散建築材料	↓	F☆☆☆	使用面積が制限される
第2種ホルムアルデヒド発散建築材料	↓	F☆☆	
第1種ホルムアルデヒド発散建築材料	多い	表示なし、F☆☆または表示なし	使用禁止

一建設では建材や壁紙に最も安全性が高いフォスター相当を使っているのでシックハウスの原因となる物質を殆ど含んでおりません。

## ボード工事



天井や壁に石膏ボードを貼り、最後にビニールクロスの壁紙を貼って仕上げます。

## 造作工事



壁や天井の石膏ボードをしっかりと固定できるように木材などで下地を組んでいきます。

## 断熱工事



床・天井・壁の内部にグラスウール製の断熱材を隙間無く敷き詰めます。冷暖房効果・断熱効果の高い住宅を実現しています。

## サイディング



外壁には厚さ14mmのサイディングを採用しています。優れた断熱性を発揮し、熱損失が少なく、冷暖房効率を高めます。